

ほんべつ



いいひと いいまち いきいき ほんべつ

町政執行方針・教育行政執行方針

2 町民が夢と希望を

持てるまちづくり

本別町の平成23年度のまちづくりの方向を示しています

8 当初予算額 111億1427万9千円

特集 平成23年度の主な事業。ソフト・ハード事業別でお知らせします

10 本別町のお金の使いみち

18 本別町行政改革推進委員会

国民年金コーナー

20 ほんべつ 歓び実感フォーラム

22 少年少女文化・スポーツ奨励賞

24 農商工連携人材育成セミナー 勇足へき地保育所落成式

26 胎教からの 読みきかせ

ハロー農業大学校……………27
マイタウン……………28
みんなの健康・銀河ホットライン
ご寄付ありがとうございます……………31
本のある暮らし・わたしたちのまち……………32



一日も早い復興を願って

東北地方太平洋沖地震で被災した宮城県南三陸町へ救援物資を届けるため、町職員5人が3月20日、大勢の人に見送られ、車両2台で役場前を出発しました。米、水など全42品目の救援物資には一日も早い復興を願う思いが込められ、応援メッセージの書かれた寄せ書きとともに届けられました

町民が夢と希望を持つるままま

町政執行方針

3月1日の町議会第1回定例会で、町政執行方針と教育執行方針が述べられ、平成23年度のまちづくりの方向性が示されました。その概要をお知らせします。

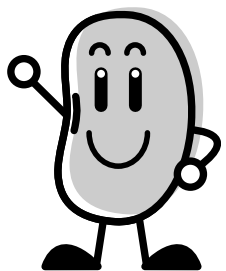
町政に臨む基本姿勢

長引く経済の低迷、雇用環境の悪化等、社会の閉塞感、将来の不安感が高まっている中で、一昨年、歴史的な政権交代が実現しました。

国の新年度予算の編成動向を見ますと、徹底した予算の組み替えと無駄の削減を図り、成長と雇用を実現する予算としております。

本町においても、国の緊急総合経済対策に迅速に対応してきましたが、これを新年度に引き継ぐことよって、さらに雇用の創出と町民生活の安定を図ってまいります。

以上から、平成23年度の町政執行にあたっては、財政運営の安定を図りながら、新年度の予



算編成についても、町民生活に密着した事業の確保と町民が夢と希望の持てる施策の展開を図りつつ、一方で基金依存度を縮小し、後年度に負担を残す町債の抑制など、将来に向けた財政基盤の確立にも配慮をしたところであります。

また、本年度は、町民の皆さまと策定した第6次本別町総合計画スタートの年であり、「ともに学び支えあい、活力のあるまちづくり」を基調に、着実な推進を図るとともに、地域主権時代にふさわしい、自主・自立の精神にあふれる新しいまちづくりの推進に努力してまいります。



町政執行方針を述べる高橋正夫町長

平成23年町議会第1回定例会の開会にあたり、新年度の町政執行に臨む基本的な考え方と施策の大綱について申し上げます。私は平成9年に就任以来、町民の皆さまとの触れ合いを大切に、町民生活に起点をおいたまちづくりを全力で進めてまいりました。

この間、町民の皆さまのご支援ご協力を賜り、住民に最も身近な基礎自治体として行政サービスの維持・向上を図り、創意と活力に満ちたまちづくりが推進できましたことに對し、改めて敬意を表し、深く感謝を申し上げる次第であります。

平成23年度 主要な施策推進の 基本的な考え方

①生涯を通じて 学び、豊かな心を 育むまちづくり

平成13年に生涯学習計画である「歓び実感プラン21」を策定し、町民の皆さまとともに模索しながら取り組みを進めてまいりました。

今後ともまちづくりの基本であるひとづくりを基軸とした取り組みを進めます。

特に、子どもたちは次代を担う宝、私たちの希望であります。子どもたちが将来に向かって大きな夢を抱き、感性豊かに育つ環境をつくり上げるため、大人と子どもが一緒になって日々学ぶ「ほんべつ学びの日」の理念の下、関係機関・団体と連携し、「4つの風」事業を推進してまいります。



農業は地域を支える基幹産業。我が国の食料基地としての役割も担っています

さらに多様な学習の機会を通して、学びの成果を日常の生活や地域活動等に生かすために、町民一人ひとりが主体的に学び続けることができる環境づくりを進めます。

②地域資源を 活かした豊かな まちづくり

国内の農業情勢は、地球温暖化や異常気象による農産物被害をはじめ、食料高騰による需給をめぐる世界情勢の変動や環太平洋経済連携協定（TPP）をはじめとした貿易における国境措置撤廃に向けた動きの活発化など、農業・農村は大きな転換期を迎えています。

本町農業も農業・農村の持続的発展に向け、今まで以上に安全・安心で良質な農畜産物の安定供給と環境保全などの役割を一層進め、平成20年度に策定した「本別町農業基本構想」に基づき、諸施策の具現化に向け鋭

意努力してまいります。

具体的には、担い手の育成・確保対策、鳥獣被害緊急対策事業の実施、土づくり事業の実施、地場産品の付加価値向上対策など、効率的かつ安定的な施策を展開してまいります。

また、本年度から道管畑地帯総合整備事業を導入し、順次、土地基盤整備を促進し、4年目となります。「農地・水・環境保全向上対策」においても、地域ぐるみで効果の高い共同活動を積極的に実施してまいります。

次に、畜産振興につきましては、粗飼料基盤の整備拡大、飼養管理技術の向上と乳質改善を図り、良質で安全・安心な生乳の増産体制を確立するとともに、優良繁殖雌牛の保留・導入による黒毛和牛繁殖経営の維持・拡大を図り経営の安定化と近代化に向け対策を講じてまいります。

次に、林業の振興につきましては、民有林の新植・下刈・除間伐事業に対する助成を行い、健全な森づくりに向けた事業の推進を図ってまいります。

次に、商工業につきましては、愛町購買意識の徹底を図るとともに、きめ細やかなサービスやプレミアム商品券の発行など付加価値を付けた取り組みを行うなど、安心で魅力のある、そして活気のある商店街づくりを目

指してまいります。

また、本町ならではの農畜産物などの地域資源や、地域の特性を活かし、商工業の振興と働く場の創出に努めてまいります。

次に、観光の振興につきましては、本町の地域資源である緑豊かな自然あふれる「義経の里本別公園」や「道の駅」などの施設整備と併せて、「キレイマメ」を中心とした地場産にこだわった食や地域の人々との交流、農業など、地域の特徴を活かした体験型観光を推進してまいります。

特に本年度は、本別ならではの食材を活かした特産品開発や地域交流を図るために、拠点施設として（仮称）農産物加工施

社会見学旅行で収穫体験をする札幌の中学生





地域に開かれ、
信頼される病院
を目指します

次に、国民健康保険特別会計につきましては、地域の経済状況、高齢者の負担増などを考慮いたしまして、本年度も税率改正は行わず、基金の繰り入れなどで対応してまいります。

後期高齢者医療特別会計につきましては、今後とも高齢者等にかかる医療制度の情報収集を続け、運営主体の広域連合と連携を図ってまいります。

次に、病院事業につきましては、道内の多くの自治体病院が、深刻な医師、看護師など医療従事者の不足、過疎化に伴う患者の減少、診療報酬改定の影響などにより、極めて厳しい経営環境におかれております。

本町としては、町民診療圏域住民が、「いつでも」「どこでも」「安心して」暮らせる地域社会を実現するため、病床数60床を維持し、初期救急など現在の医療水準の確保を図り、周辺地域の拠点病院としての役割を担ってまいります。

病院事業会計の運営につきましては、引き続き医師、看護スタッフなどの確保を進め、外来患者および病床稼働率の向上による収益



地域でも子育てを
サポートします

設の整備を行います。

次に、移住・地域交流につきましては、田舎へのあこがれや退職期を迎えた団塊世代の方々など、経験豊かな人材の移住・交流を促進し、地域の活性化を目指すとともに、引き続き定住団地の分譲促進を図ってまいります。

次に、雇用環境、勤労者福祉につきましては、企業の新たな雇用創出に対する支援体制や北海道の緊急雇用創出事業を活用した事業の推進を図るとともに、新たな起業による雇用創出に対する支援策など、雇用環境の整備に努めてまいります。

③ともに支えあい、 安心、安全に暮ら せるまちづくり

本町の少子高齢化は著しく、超高齢社会を迎える中で、参加・連帯・自立を理念とした「健康長寿のまちづくり条例」を基本に、町民参画による創造的で豊かな福祉を目指して取り組んでまいります。

地域福祉の充実につきましては

は、安心生活創造事業によるサービス提供を開始しておりますが、災害時要援護者避難支援計画につきましても、町民の皆さまのご協力をいただきながら推進してまいります。

子育て支援につきましては、保育の質の向上と未満児や障がい児に対する保育の充実にも努めてまいります。

また、発達の遅れや障がいのある幼児・児童への相談支援の充実を図るため、関係機関と連携して早期発見とその適切な対応を図ってまいります。

地域での子育てサークルや「すきやき隊」による支援活動につきましても、子育て支援センターを中心に町民の皆さまと一緒に取り組むとともに、児童館事業など青少年の健全育成に努めてまいります。

高齢者福祉、介護保険事業につきましては、昨年度整備した「清流の里」に高齢者住居施設を社会福祉協議会が事業主体となり併設し、住まい・生活支援サービスの提供など、包括的な支援体制の構築を図ります。

地域包括支援センターでは、介護予防のさらなる充実を図るため、町内の歯科医院と協力して口腔機能向上事業を実施してまいります。

権利擁護事業の充実につきま

確保を図りながら、経営体質の強化に努めてまいります。

診療体制は、内科、外科の基礎診療科を中心に、1・5次医療として耳鼻咽喉科、眼科、泌尿器科など、町民の医療ニーズに応えた専門診療科の充実にも努めてまいります。

また、患者サービスの向上のため、引き続き接遇の改善に努めながら、地域に開かれ、信頼される病院づくりに取り組んでまいります。

防災対策につきましては、本年度は、5年に一度の総合防災訓練の年に当たり、町全体で取り組むとともに、風水害や地震、土砂災害などの各種災害に対して、防災意識の高揚を図ります。

さらには、交通事故のない、犯罪のない明るく住みよいまちを目指し、町民一人ひとりの防犯・交通安全意識の啓発に努めてまいります。

④快適で

やさしさのある まちづくり

道路整備につきましては、北海道の事業として道道居辺本別線と本別土幌線の整備が実施されます。また、本別公園通り街路事業の用地取得業務を北海道



あらゆる情報を送る光ケーブル

より受託し、進めてまいります。

町道整備につきましては、町道上押帯幹線道路ほか4事業と橋梁長寿命化修繕計画策定にかかる調査・点検、道道本別本別停車場線改良に伴う町道南1丁目3号通り交差点改良予備調査を実施してまいります。

交通体系につきましては、ふるさと銀河線代替バス、太陽の丘循環バス、町有バスなど公共交通機関の安定的な運行に努力するとともに、生活維持路線バス「浦幌線」の運行拡大を進めてまいります。

次に、情報通信につきましては、町民誰もが情報化の恩恵が受けられるよう、現在、町内全域に光ケーブルを敷設しており、

今後は、防災、医療、福祉、教育、産業などあらゆる分野において、光ケーブルを活用し、町民生活の向上や産業の振興を図ります。

次に、循環型地域社会につきましては、街路灯整備計画・地球温暖化対策実行計画等に基づき、街路灯のLED化、家庭への太陽光発電システムの導入助成など、CO₂削減による地球温暖化防止への寄与と、消費電力削減による省エネルギー化を目指します。

次に、水道は、施設の整備や維持管理を計画的に進め、安全で良好な水を安定的に供給できるよう努力してまいります。

下水道につきましては、施設の整備と維持管理に努め、水洗化の促進を図ってまいります。

公共下水道区域外で実施していません浄化槽整備事業についても、引き続き事業の推進を図ってまいります。

次に、水道は、施設の整備や維持管理を計画的に進め、安全で良好な水を安定的に供給できるよう努力してまいります。

下水道につきましては、施設の整備と維持管理に努め、水洗化の促進を図ってまいります。

公共下水道区域外で実施していません浄化槽整備事業についても、引き続き事業の推進を図ってまいります。

公営住宅整備につきましては、住環境の向上を図るため、本別町住宅政策推進計画に基づき、栄町団地の建替事業と向陽町団地の改善事業を実施いたします。

公園緑地の整備につきましては、本別公園、清流公園施設の改築・更新を行い、町民の憩いとふれあいの場としての快適な環境づくりに努めてまいります。



安心して子どもを産み育て
られる環境づくりに努めます

しては、本年度から社会福祉協議会による法人後見業務について調査研究することとしております。

障がい者福祉につきましては、相談支援体制や各種の障がい福祉サービス基盤の充実および居住環境の整備、就労支援など、自立した生活への支援を行ってまいります。

NPOつじの園につきましては、引き続き安定した運営活動の支援を行うとともに、バイオディーゼル燃料(BDF)の精製事業などの就労支援活動についても支援してまいります。

さらには、町内NPO法人や関係団体等の協力により障がいに対する町民理解の推進や社会参加の促進に向けた取り組みを進めてまいります。

健康管理センター事業につきましては、保健・医療・福祉との連携を図り、各種検診業務を実施してまいります。

特に、母子保健につきましては、安心して子どもを産み、育てられるよう、妊娠期の相談や乳幼児健診の充実にも努めます。

妊婦一般健康診査につきましては、14回の助成を継続して実施するとともに、乳がん検診につきましても、受診対象者を30歳以上とし、無料クーポン券による子宮頸がん・乳がん検診も

継続して実施いたします。

さらに、母子保健・子育て支援の観点から乳がん・子宮頸がん検診などの自己負担の軽減を図ることいたしました。

今年1月からは、「子宮頸がん等ワクチン接種」への全額助成を実施しており普及啓発に努めておりますが、本年度は高齢者(65歳以上)に対する肺炎球菌ワクチン接種の半額助成を行うことといたしました。

老人ホームの運営につきましては、利用者のニーズや状態に合ったサービスを提供するとともに、利用者の方々が持っている能力に応じ、可能な限り自立した日常生活を営むことができよう支援を行います。



元気に通学する高校生。
生徒の夢と希望を叶える
ために、さらなる支援を
推進します

スクールバスは、老朽化が著しく、安全運行に支障が無いよう年次計画により、更新を進めます。なお、スクールバスの安全・安心運行を維持しながら、運行業務の民間委託を拡大実施します。

国際理解教育の推進では、中学校に英語指導助手を継続配置し、小学校には新学習指導要領による外国語活動に対応し、「英語に慣れ親しむ活動」の拡充をしながら、未来を担う人材育成と国際社会

の将来を見据えた国際理解教育の推進を図ります。

障がいを持つ子どもたちへの特別支援教育の体制整備については、特別支援教育連携会議を中心に、実務担当者による専門委員会機能を充実し、子どもたちへの必要に応じた適切な個別支援をします。

本別高校の存続活動では、特色ある学校づくり、生徒に魅力ある学校づくりの支援策として、「学ぶ喜び」の学力向上対策、「夢実現」の進路対策、本別高校の伝統継承としての「文武両道」支援、「学びへの保障」の通学支援などについて、本別高校と十分な協議をしながら、支援策のPRなど、地域の高校としての存続活動を推進します。

食育の推進については、学校における食育の取り組み強化と、学校給食が持つ重要な役割を指導し、安全で安心な、そして美味しく喜ばれる適正な学校給食の提供に努め、地産地消を基本に食育を図っていきます。

また、老朽化が著しい学校給食共同調理場は、築39年を経過しており、「学校給食共同調理場整備推進本部」により、改築に向けた調査・研究・検討を進めます。

平成20年度にスタートした第六次本別町社会教育中期計画が

最終年次となることから、これまでの事業評価を行い、町民が心豊かに生涯にわたり自己実現が図れるよう、各種学習機会の提供や明るい地域社会の創造を目指して、次期中期計画の策定を進めます。

社会教育活動については、就学前の子育て中の親や祖父母を対象に、地域サークルと連携を図りながら「家庭教育・支援事業」を開設し学習機会や情報の提供など、より充実した子育て支援や家庭教育に向けた総合的な取り組みを引き続き進めます。

親が働きながら安心して子育てができるよう地域の協力を得て、子供たちに様々な体験や学習・交流活動などの機会を提供を行う「放課後子ども教室」を勇足地区に開設し、放課後の子どもたちの安全・安心な居場所づくりと健全育成を図ります。

公民館活動については、趣味や教養などを中心に町民が主体的に取り組む講座や夏休み・冬休みに子供たちにも関わりの楽しさを味わう体験教室のほか芸術文化活動の促進を図るため、個人やサークル、文化団体と連携し、展示会や各種発表会など自主的な文化活動に対する支援活動に努めます。

図書館では、開町110年を機に、本町の歴史や郷土資料を

電子化し未来に引き継ぐための整備を進め、情報発信の拠点施設としてサービスの充実に努めます。

また、胎教からの読み聞かせの大切さを伝える「ファーストブック事業」を継続し、絵本を通して親子のふれあいが心の財産となるように取り組むとともに、さらに児童の読書力向上を図るため教科書に掲載されている作家による出前授業の取り組みを進めます。

資料館では「わが町の七月十五日展」と語り部による講演会や朗読により戦争の苦しみや悲しみ、そして平和の意義を伝えていきます。

また、企画展では開町110年を迎えた本別を後世に伝える写真展を開催します。家族や子供たち、風景などの写真を町民から募集し、町民一人ひとりが現在の本別から未来の本別を考える取り組みを進めます。

社会体育活動については、年齢や性別を問わずそれぞれの体力や年齢に応じて、どこでも気軽にスポーツを楽しむことができるスポーツイベントを開催し、住民の健康づくりやスポーツの振興、地域の活性化を図るとともに町民皆スポーツの推進に努めます。



町民参加の
まちづくり

ごみ処理事業の推進につきましては、地域・町民の皆さまのご協力により、活発に資源集団回収事業に取り組んでいただき、ごみの減量化や資源化を進めてまいります。今後、より一層のリサイクル率の向上を目指してまいります。

⑤ 町民力、地域力、行政力が発揮できるまちづくり

地域コミュニティ意識の低下ならびに複雑化・高度化する社会の課題に対応するため、これまでに培ってきた町民力、地域力、行政力が発揮できるまちづくりを進めます。併せて、行政の持つ情報を積極的に公開し、町政の「透明性・公平性」に努めてまいります。

新たな広域行政の推進につきましては、現在、十勝圏複合事務組合において、住民の安全、安心、そしてサービスの向上を基本理念に消防広域化の検討を行っているところであり、その構成団体の一つとして、十勝圏域全



教育行政執行方針を述べる
若木佳則教育委員長

家庭・学校・地域・行政が相互に協力し、子どもたちの教育やまちづくりに主体的に参加するひとつくりを進めます。また、確かな学力を身につける

みさらさら展開します。こうした学び輝く学校教育の推進と学び高め合う社会教育活動を推進するため、一人ひとりの個性を活かし、元氣な声が響く教育の充実と豊かな心とたくましい心身をつくる学びとスポーツの振興、さらには、はつらつとした活力のある地域文化の創造を基本とした施策の展開を図ります。

また、胎教からの読み聞かせの大切さを伝える「ファーストブック事業」を継続し、絵本を通して親子のふれあいが心の財産となるように取り組むとともに、さらに児童の読書力向上を図るため教科書に掲載されている作家による出前授業の取り組みを進めます。

資料館では「わが町の七月十五日展」と語り部による講演会や朗読により戦争の苦しみや悲しみ、そして平和の意義を伝えていきます。

また、企画展では開町110年を迎えた本別を後世に伝える写真展を開催します。家族や子供たち、風景などの写真を町民から募集し、町民一人ひとりが現在の本別から未来の本別を考える取り組みを進めます。

社会体育活動については、年齢や性別を問わずそれぞれの体力や年齢に応じて、どこでも気軽にスポーツを楽しむことができるスポーツイベントを開催し、住民の健康づくりやスポーツの振興、地域の活性化を図るとともに町民皆スポーツの推進に努めます。

教育行政執行方針

体から信頼される消防体制の構築に向けた議論に参加してまいります。

本年、本町は開町110年を迎え、一方、友好都市提携を結ぶ徳島県小松島市は市制60周年を迎えることとなります。双方を迎える節目に際し、改めて交

流の促進を確認するとともに、相互訪問等、民間交流を図ってまいります。なお、姉妹都市ミツチエルとの国際交流についても、行政の枠を超えた幅広い交流活動を展開していきます。

本町を取り巻く環境は一段と厳しさを増しておりますが、町

民の皆さまと築いてきたまちづくりの実績と信頼を大切に、「まち」を支える町民の皆さまの頼もしい力を得ながら、「ともに学び 支えあい 活力のあるまちづくり」を目指して、全身全霊を傾け積極果敢に取り組んでまいります。

主要施策の推進

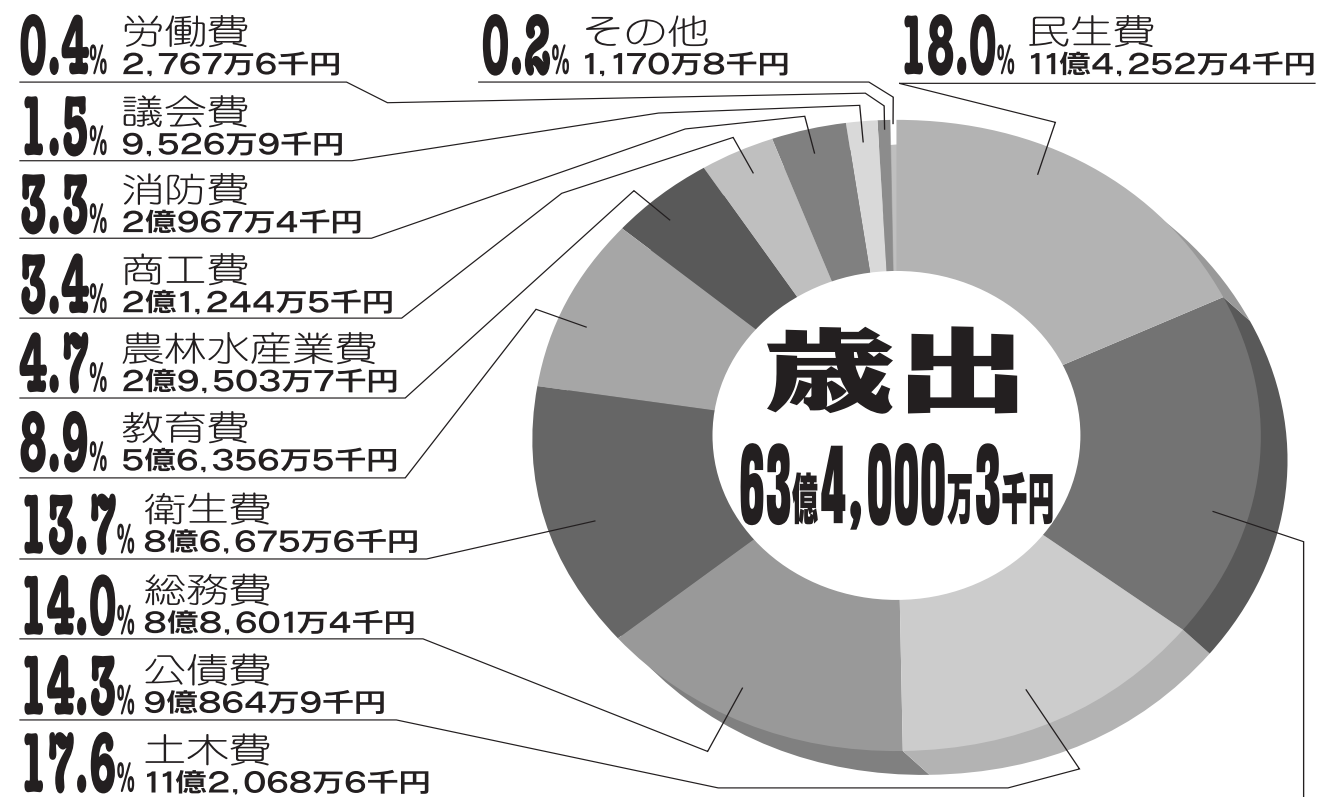
ほんべつ学びの日の集いを開催し、普及啓発活動を通して、家庭・学校・地域が密接に連携しながら、大人と子どもが共に日々学ぶ4つの風の具体的な取り組みを町の中に広めます。

学びの日関連事業として、開町110年を記念した「子どもたちに夢を与える講演会」を開催し、豊かな人間性を育み、子どもたちがたくましく生きていけるよう、将来の自立をめざした取り組みを進めます。

それぞれの学校が特色ある教育課程を編成するなど、学ぶ楽しさはもちろん基礎・基本を大切にして、応用力も身に付ける学習指導の創意工夫と活力に富む教育実践活動の充実に努めま

平成23年度 111億1,427万9千円

一般会計 63億4,000万3千円
 特別会計 29億9,235万3千円
 企業会計 17億8,192万3千円



財政基盤の確立と生活に密着した事業の確保、町民が夢と希望の持てる施策の展開を図ります

平成23年度予算編成

平成23年度の予算規模は、一般会計および特別・企業会計を合わせた予算総額は111億1,427万9千円となり、前年度と比較しますと0.1%の減となっております。予算編成にあたっては、依然として財政状況の厳しい中、予算の重点化、効率化を図るなかで、町民生活に密着した事業の確保と町民が夢と希望の持てる施策の展開を図りつつ、一方で基金依存度を縮小し、後年度に負担を残す町債の抑制など、将来に向けた財政基盤の確立にも配慮しました。

一般会計予算の概要

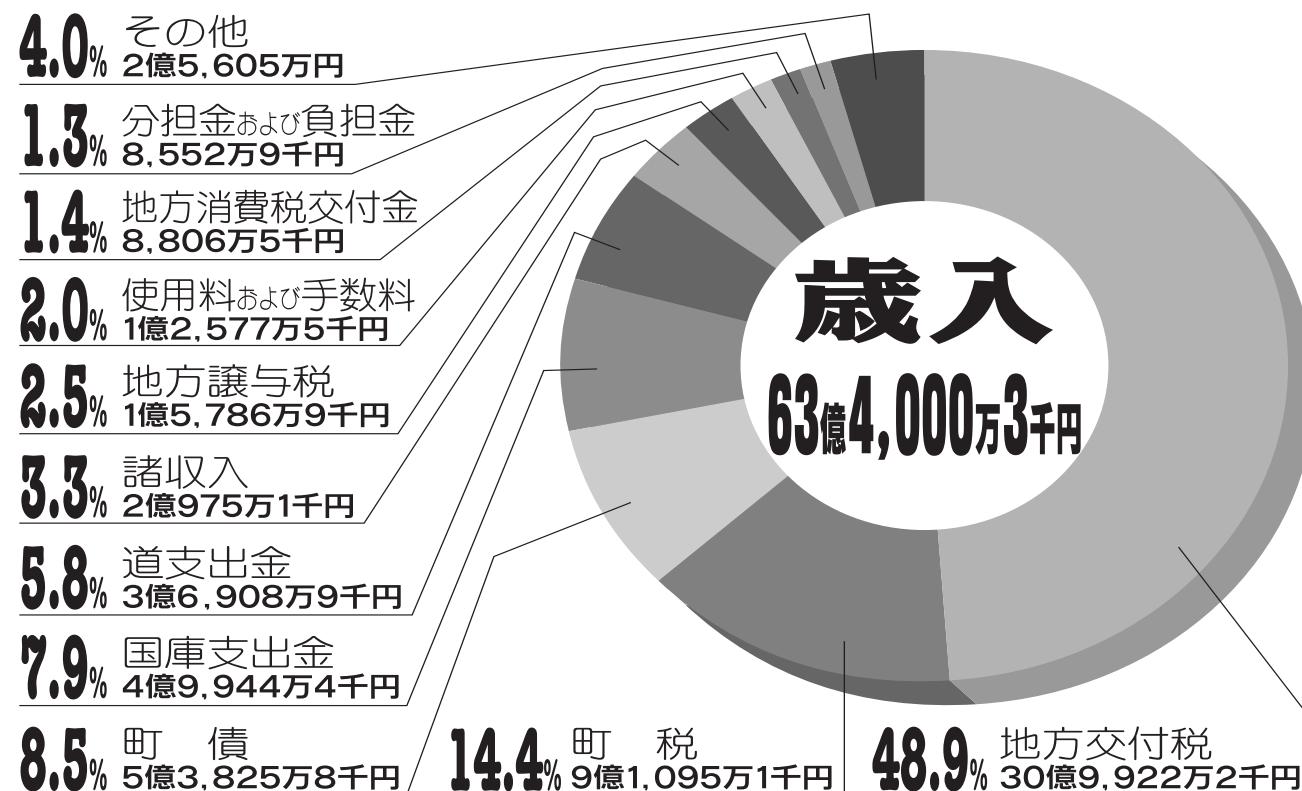
一般会計予算の総額は、63億4,000万3千円で、前年度当初予算63億6,028万1千円と比較し、0.3%の減となっております。

歳入につきましては、町税は歳入の14.4%を占めており、前年度当初予算と比較すると、2,590万7千円、2.9%増の9億1,095万1千円を見込んでおります。主な要因としては、町民税個人所得割が1,222万1千円、3.9%増、法人税割が1,370万1千円、65.4%増となっております。地方交付税は、総額で歳入の48.9%を占めておりますが、普通交付税につきましては、国勢調査人口の減、公債費算入額の減などから、前年度当初と比較し2,859万8千円、1.0%減の28億7,510万8千円を見込み、特別交付税を含めた地方交付税総額は、30億9,922万2千円を見込んでおります。繰入金は、財政調整基金をはじめとした基金繰入金を1億3,692万円とし、前年度の2億円に対して、6,308万円、31.5%の減となりましたが、財政調整基金は前年度同額の1億円、減債基金は90万円減の1,000万円、ふるさと銀河線跡地活用等振興基金は200万円増の1,800万円などを繰り入れました。地方債は、5億3,825万8千円で、前年度比1億7,117万4千円、46.6%の増となっておりますが、医療機械器具、消防施設および臨時財政対策債の2億1,685万8千円を除く投資的経費充当分は3億970万円で、前年度の1億4,460万円に対して1億6,510万円、114.2%の増となっております。

歳出につきましては、投資的経費は9億9,554万円を計上しており、前年度当初予算と比較し、6,015万5千円、6.4%増となっております。雇用対策につきましては、国の緊急雇用創出推進事業として4事業3,708万8千円、ふるさと雇用再生特別対策推進事業は1事業934万円、季節労働者雇用対策として386万円、ワークシェアリング枠として488万5千円（高校生3人）を計上いたしました。

各会計別当初予算額 (単位：千円・%)

会計区分	本年度 A	前年度 B	差引(A-B) C	C/B×100
一般会計	6,340,003	6,360,281	△ 20,278	△ 0.3
特別会計				
国民健康保険	1,324,562	1,334,619	△ 10,057	△ 0.8
老人保健	0	428	△ 428	△ 100.0
後期高齢者医療	105,972	107,174	△ 1,202	△ 1.1
介護保険事業	703,447	693,516	9,931	1.4
介護サービス事業	275,137	262,135	13,002	5.0
簡易水道	93,673	87,590	6,083	6.9
公共下水道	489,562	466,228	23,334	5.0
小計 (1)	9,332,356	9,311,971	20,385	0.2
企業会計				
水道事業				
収益的収支				
収入	143,062	146,716	△ 3,654	△ 2.5
支出(2)	143,062	146,716	△ 3,654	△ 2.5
資本的収支				
収入	44,000	50,600	△ 6,600	△ 13.0
支出(3)	85,322	97,295	△ 11,973	△ 12.3
病院事業				
収益的収支				
収入	1,338,463	1,343,851	△ 5,388	△ 0.4
支出(4)	1,447,585	1,460,167	△ 12,582	△ 0.9
資本的収支				
収入	76,697	75,365	1,332	1.8
支出(5)	105,954	105,130	824	0.8
合計 (1)+(2)+(3)+(4)+(5)	11,114,279	11,121,279	△ 7,000	△ 0.1



特集

本別町のお金の使いみち

今年度主な事業あれこれ

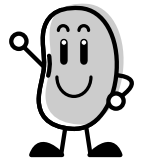
☆印は新規事業です

平成二十三年度の一般会計予算の主な事業について、ソフト事業、ハード事業に分けて説明します。

ソフト事業編 Part 1

活動や仕組み、技術、情報、サービスなど
※ソフト事業目的のため整備されるハード事業を含む

☆本別町開町110年記念事業



- ・開町110年記念式典
- ・小松島市市制60周年表敬訪問
- ・ミッチェル答礼訪問
- ・本別町史制作（平成22～23年度）

16,269千円

本別町行財政改革の推進

第4次行財政改革大綱および推進計画の策定・推進

消費者行政活性化事業

消費者対策に対する消費生活相談員の研修、啓発チラシの配布、講演会の開催を実施します。


2,009千円

いきいき商品券事業

地域商工業の活性化および景気対策として商工会に補助します。

- ・5,000万円分の商品券を発行、額面11,500円（15%上乘せ）

8,000千円



雇用対策事業

- 緊急雇用創出推進事業
 - ・本別町公式ホームページ作成 **12,860千円**
 - ・重点分野雇用創出推進事業 **23,111千円**（介護分野・観光地振興プランおよび特産品PRプラン検討業務・地域農産物付加価値向上事業・道の駅弁当開発および販売促進事業）
 - ・農産物加工施設開設準備事業 **1,117千円**
- ふるさと雇用再生特別対策推進事業
 - ・道の駅関連事業 **9,340千円**
- 季節労働者雇用対策 **3,860千円**
- ワークシェアリング枠（高校生3人） **4,885千円**

総事業費 55,173千円

生活維持路線バス（浦幌線）の運行

平日夜1回、休日朝夕各1回の運行をします。

3,615千円

地方バス路線運行維持対策

十勝バス留真線、帯広陸別線を維持するための対策を図ります。

3,349千円

子ども手当

平成22年度より創設された「子ども手当」を交付します。

127,260千円



☆第5期銀河福祉タウン計画の策定

（計画期間：平成24年～26年度）
全高齢者を対象に、日常生活圏ニーズ調査を実施します。

4,043千円

災害時要援護者避難支援計画

（地域との協働により実施）
災害時における要援護者の避難支援の全体計画・個別計画を策定します。

安心生活創造事業

一人暮らし高齢者等が安心して暮らせるよう「見守り」や「買い物支援」を行う厚生労働省のモデル事業。

10,000千円

地域活動支援センター事業

- ・町内小規模作業所 **1,318千円**
- ・広域利用促進 **390千円**

障がい者自立支援給付等

- ・補装具給付・修理 身体障がい者等 **2,125千円**
- ・自立支援医療 一般医療（人工関節等） **225千円**
- 人工透析 **25,031千円**
- ・在宅精神障がい者通所交通費助成 **119千円**
- ・介護給付・訓練等給付
 - 身体障がい者 **20,261千円**
 - 知的障がい者 **101,780千円**
 - 精神障がい者 **6,939千円**
 - 障がい児 **212千円**
- ・地域生活支援事業 **19,415千円**
 - 日常生活用具給付事業 移動支援事業
 - 更生訓練費給付事業 日中一時支援事業
 - 生活サポート事業 社会参加促進事業
 - 身体障がい者自動車改造費助成
 - 肢体・言語・情緒障がい児通園助成

総事業費 176,107千円

障がい者等相談支援事業

600千円

乳幼児等医療費助成事業

子育てを支援するため、町独自に小学生の通院、中学生の入通院を助成します。

5,160千円

妊婦健康診査助成

（助成回数14回）

5,139千円

☆子宮頸がん等ワクチン接種事業

- ・子宮頸がんワクチン（対象：中学1年から高校3年）
- ・ヒブワクチン
- ・小児用肺炎球菌ワクチン

4,962千円

麻しん・風しん予防接種

中学1年生・高校3年生を対象に平成24年度まで実施。

2,295千円

季節性インフルエンザ予防接種助成

（対象：小児〈1歳～就学前〉・高齢者）

1,840千円

☆高齢者肺炎球菌ワクチン接種事業

65歳以上の高齢者を対象に半額（3,000円）を補助します。

600千円

☆心の健康づくり事業

北海道地域自殺対策緊急強化推進事業費補助金を活用した、講演会の実施および相談支援体制（相談窓口）の構築。

1,000千円

特定健診および各種がん検診の充実

平成21年度から乳がん検診を30歳から対象（クーポン券による子宮頸がん・乳がん検診を含む）としています。

10,459千円

介護サービス事業特別会計

- ・本別町指定居宅介護支援事業所の運営
 - ・本別町指定予防支援事業所の運営
- 41,195千円**

介護保険特別会計地域支援事業

1. 介護予防事業
- ①通所型介護予防（運動器機能向上・栄養改善・口腔機能向上など）
 - ②訪問型介護予防（うつ・認知症・閉じこもりの予防と支援）
 - ③地域介護予防活動支援（地域活動組織の育成と支援）
- ☆④介護予防の充実を図るため、口腔機能向上事業を町内歯科医院（歯科医師、歯科衛生士）の協力を得て実施します
- 16,907千円**

2. 包括的支援事業（地域包括支援センター）
- ①介護予防マネジメント
 - ②総合相談支援／権利擁護／虐待防止支援
 - ③包括的継続的マネジメント
- 23,407千円**

3. 任意事業
- ①家族介護支援
 - ・認知症高齢者見守り事業（やすらぎ支援事業）他
 - ②その他事業
 - ・介護相談員派遣事業
 - ・成年後見制度利用支援事業 他
- ☆今年度は、町社会福祉協議会による成年後見の法人後見業務について調査・研究を実施します
- 3,154千円**



病院事業 医療機器購入

（全自動尿統合分析装置ほか）
18,806千円

ソフト事業編 Part 2

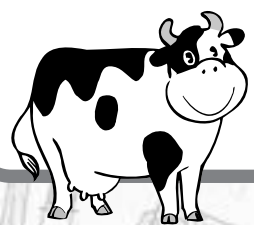
活動や仕組み、技術、情報、サービスなど
※ソフト事業目的のため整備されるハード事業を含む

☆本別町黒毛和種資質向上・経営安定特別対策事業

（30頭） **1,200千円**
（本町負担分 600千円）

☆生乳生産基盤維持向上・経営安定特別対策事業

（200頭） **6,000千円**
（本町負担分 2,000千円）



☆農業者戸別所得補償制度推進事業

戸別所得補償制度の円滑な事務を実施する体制の構築を図ります。
2,100千円

☆土作り奨励特別事業

クリーン農業の推進と健康な土づくりによる安心した農産物のイメージを発信し、ブランド化を図ります。
・緑肥種子代助成（60 t）
・土壌改良剤購入助成（6,000 t）
4,890千円

資料館特別展示「わが町の七月十五日展」と「明日に語りつぐ平和の集い～講演と朗読」の開催

本別空襲を伝える「わが町の七月十五日展」の開催と併せ、女優の「日色ともゑ」さんによる悲惨な戦争を語り継ぐ講演と朗読を通して平和の大切さを伝えるとともに、朗読による言葉の力を学ぶ取り組みとします。
340千円

☆スポーツイベント「チャレンジデー2011」の開催

○開催日 5月25日（水）
毎年5月の最終水曜日に全国一斉に実施されている住民総参加型のスポーツイベントです。年齢や性別を問わず15分間以上運動するだけで、誰でも気軽に参加できます。
100千円

「ほんべつ学びの日」関連事業

家庭・学校・地域が融合し、大人と子どもが一緒になって学びへの関心を高める「ほんべつ学びの日」を、広く町民に普及啓発し、学習意識の高揚と地域の教育力向上を図ります。また、開町110年記念「子どもたちに夢を与える講演会」を開催します。

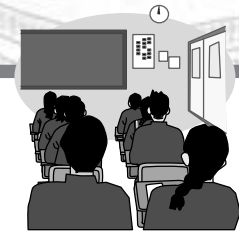


☆小学校用教科書採択替えに係る教師用指導書の更新

新学習指導要領改正に基づく小学校の教科書採択替えに係る教師用指導書を更新整備します。
2,463千円

本別高校の教育を考える会補助金

- ①一般事業
本別高校パンフレット、PR用チラシ作成
 - ②進路指導対策事業
進路意識啓発講演会、進路指導講師招聘、視察研修費、資格取得補助費、オープンキャンパス参加補助
 - ③学力向上対策事業
模擬試験受験補助：進学・就職模擬試験受験料補助教材活用費：駿台予備校サテライトDVD購入
 - ④特別活動支援
部活動補助、大会参加交通費支援、外部指導者謝礼
 - ⑤通学費支援
遠距離通学補助、下宿補助
- 8,152千円**



☆勇足地区放課後子ども教室の開設

親が働きながら安心して子育てができるよう、地域との協働により子供たちに体験や学習、交流等の機会を提供し、放課後の子どもの居場所作りと健全育成を図ります。
1,585千円

☆読書力向上に向けた取り組み「小学校出前授業と読書講演会」の開催

小学校の教科書に教材として作品が掲載されている児童文学者「矢崎節夫」氏を講師に迎え、小学校で出前授業を実施し、国語力の向上に向けた取り組みを進めるほか、読書講演会を開催し、童謡詩人金子みすゞの世界を通して教育や福祉、まちづくりの原点を探ります。
200千円

ハード事業編 Part1

建物、道路などの事業

☆都市公園安全・安心対策緊急総合支援事業

(平成23～25年度)

- 清流公園 園路整備180m、広場整備495㎡、遊具更新5基、柵更新245m
- 本別公園 かぶと池擁壁改修380m、遊具更新4基、トイレ改修1基

88,000千円

☆高齢者居住施設整備事業

介護が必要になっても施設入所することなく、住み慣れた地域で生活ができるように住まいや生活支援を図ります。

- ・小規模多機能型居宅介護事業所隣りに建設(主体：本別町社会福祉協議会)

52,800千円

エネルギー対策の推進

平成21年度に策定した本別町新エネルギービジョンに基づき、地球温暖化対策に取り組みます。

- 太陽光発電システム導入補助金

- ・一般住宅 7万円/1kw(上限=4kw、28万円)20件

5,600千円

☆除雪ダンプの更新

10t車1台 42,139千円

☆橋梁長寿命化修繕計画調査点検

161橋を調査点検
18,000千円

町道歩道拡幅工事(バリアフリー化)

高齢者や障がい者などが、スムーズに横断できるよう歩道の一部を拡幅します。

3路線 7,400千円

公営住宅建替事業

栄町団地公営住宅建替
木造平屋 2棟8戸
団地内道路整備など

127,687千円

火葬場火葬炉設備補修工事

- ・バーナー付炉壁扉の交換

1,995千円

まちづくり事業

(5か年計画の5年目)

～ふるさと銀河線旧駅舎と周辺整備事業の推進～

快適でうるおいあふれる生活環境の整備、新たな活力を生む商工業の振興、地域に根ざした特色ある観光を中心としたまちづくりの推進を柱に、道の駅を含めた旧本別駅舎周辺をはじめとする旧銀河線周辺整備について、国の社会資本整備総合交付金事業を活用して進めるものです。

- 旧本別駅舎および周辺整備

- ・農産物加工施設建設工事
- ・農産物加工施設実習室備品整備
- ・旧本別駅舎広場整備工事
- ・鉄道記念館(跨線橋)改修工事

- 旧仙美里駅舎および周辺整備

- ・鉄道展示室整備工事
- ・案内看板設置工事

151,702千円

公営住宅改善事業

向陽町団地公営住宅改善
コンクリートブロック平屋1棟

66,387千円

北海道街路事業

(平成22～23年度)

- 3・4・5本別公園通

- ・用地取得、物権移転補償

73,226千円

旧ふるさと銀河線跡地の対策

用地確定測量(北海道糖業裏～共栄、上本別～東仙美里まで)
延長=5.79km

18,000千円

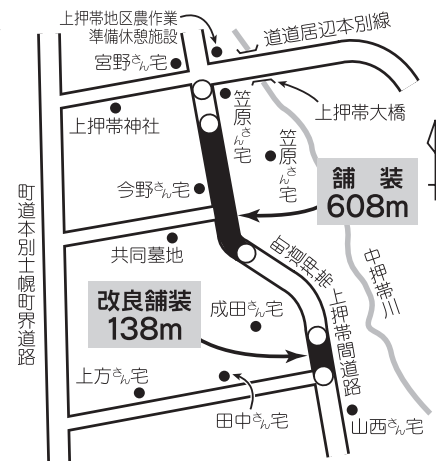
このほか
道路整備事業として
事業費20,192千円
で2か所の町道を
整備します

町道上押帯幹線道路 道路改良舗装

(平成14～23年度)

- 〈改良舗装工事〉
- 総延長=1,374m
- 幅員=5.5m
- 改良舗装=138m
- 舗装=608m

40,385千円



ハード事業編 Part2

建物、道路などの事業

農業農村整備事業の推進

道営事業
 ○畑地帯総合整備事業
 ・勇足地区新規計画書作成
 ・仙美里地区調査設計
70,000千円
 (本町負担分 17,000千円)
 本別地区土地改良施設補修工事
4,000千円

畜産担い手育成 総合整備事業

(平成21~24年度)
 飼料基盤整備等
35,073千円
 (本町負担分 17,709千円)

桜ともみじの山 造成事業

(新生地区)
 <整備> 0.58ha
 <植樹祭> 108本
1,836千円

☆未来につなぐ森づくり推進事業

<民有林の植栽> 60ha
7,980千円

水道事業

☆浄水場水道施設監視装置更新工事
34,000千円
 新町本通り配水管整備事業
10,000千円

簡易水道事業

西美里別地区配水管整備工事
 配水管φ25 延長=296m
5,880千円

下水道事業

公共下水道
 処理場機器更新 一式
74,400千円
 個別排水処理埋施設
 合併処理浄化槽 8基
17,534千円

☆スクールバスの更新

中型車 (45人乗り) 1台
19,449千円

☆民有林造林促進事業

<人口造林> 3ha
 <下刈> 3ha
 <除間伐> 110ha
 <造林未済地対策> 63ha
3,154千円

町有林造林事業

(フラツナイ、美蘭別地区ほか)
 <新植> 5.70ha
 <下刈> 25.32ha
 <補植> 5.58ha
 <除伐> 7.12ha
5,086千円

農地・水・環境保全 向上対策事業

環境の良好な保全と資質的向上を図ることを目的として、農業者と地域住民が農道や農業用排水路等の維持管理および環境保全管理の取り組みを行います (対象16地区)。
47,864千円
 (本町負担分 11,996千円)

勇足保育所新築工事 (外溝工事)

平成22年度新築に伴い、今年度は外溝を整備します。
5,586千円

☆鳥獣被害緊急対策事業

・鹿防護柵新設 6km
 (錦町~朝日町、東町~坂下町)
 ・鹿電牧器購入 35km
51,450千円

本別町行政改革推進委員会

町民と行政の

協働による

まちづくりの推進

平成22年度第1回本別町行政改革推進委員会（榎原千佳子会長、12人）が2月28日、役場で開催されました。

榎原会長は「第3次行政改革の総括をし、委員の皆さんの意見を伺いながら第4次行政改革の策定へと進んでいきたい」とあいさつ。続いて、事務局から第3次行政改革（平成17年度～平成21年度）の総括と町の財政状況についての報告、第4次行政改革大綱および推進計画（平成23年度～平成27年度）の策定方法について説明がありました。

委員からは、「取り組みを見ると、コストなどが大きく削減されているが、町民へのサービスが低下しては困る」「次期行政改革の計画は、第6次総合計画に沿って進めるべきである。住民サービス低下は出されるだけではない方がよいが、財政状況を考えると厳しいものがある。この間、学びながら知恵を絞り、まちづくりを協働で進めてきた。行政と住民がともに意識を変えなければ財政状況はよくなり。財政効果額

をみると職員給与等の削減により、多くの効果額が出ている。町民も同じ思いで進めていかなければならない」などの意見が出ました。今後の策定方法については、同委員会と行政改革推進本部（本部長・高橋正夫町長）が協働で進めることを確認しました。

【本別町行政改革推進委員会名簿】（敬称略）

- 会長 榎原千佳子（本別町女性会議会長）
- 委員 内田基一（本別町農業協同組合専務理事）
- 湯山嗣泰（本別町商工会事務経改委員会委員長）
- 三枝金作（本別町自治会連合会会長）
- 新津 謙（連合北海道本別地区連合会副会長）
- 古田二郎（本別町社会福祉協議会理事）
- 今野公司（あび実感プラン21推進協議会会長）
- 篠原寿美江（本別町農業協同組合女性部部長）
- 矢部志保子（本別町市街地婦人会）
- 朝日 薫（一般）
- 佐藤和重（一般）
- 高瀬和子（一般）



第3次行政改革（平成17年度～平成21年度）の総括

第3次行政改革による5年間の財政効果は、人件費をはじめ事務・事業コスト抑制による19億5千万円の削減と使用料・手数料の見直しなどによる2億円の増収で、合わせて21億円となりました。一方、推進計画で定めた行政改革のために推進すべき57項目のうち、「計画通り進んでいる」「おおむね計画通り進んでいる」の54項目に対し、「計画通り進んでいない」が3項目あるなど課題も残りました。

5年間の財政効果の内訳

取り組み項目	削減による効果額
I 事務事業の再編・整理・廃止・統合（ごみ収集体制見直しなど）	△2億5,596万7,000円
II 民間委託等の推進（ごみ収集業務の民間委託の推進など）	△3,448万4,000円
III 定員管理の適正化（役場職員数の削減など）	△6億3,200万0,000円
IV 手当の総点検を始めとする給与の適正化（役場職員の給与制度見直しなど）	△6億3,331万6,000円
V 経費削減等の財政効果（経常経費の削減、役場出張所機能、補助金見直し）	△2億6,145万0,000円
VI 地域協働の推進（資源集団回収奨励事業の推進）	△1億0,429万5,000円
VII その他（水道事業会計、特別会計の健全化）	△3,138万3,000円
(計)	△19億5,289万5,000円
取り組み項目	収入等の増額による効果額
I 適正な受益者負担を基本とした、使用料・手数料・負担金の見直し（ごみ有料化、公共施設使用料の見直しなど）	2億0,266万3,000円
(計)	2億0,266万3,000円
削減と収入等の増額による効果額の合計	△21億5,555万8,000円

課題の残った3項目

- 道路網整備計画書の作成
- 本別公園の管理運営についての整備計画
- へき地保育所のあり方について



国民年金

『学生納付特例制度』とは？

学生納付特例制度は、所得が無い学生が将来、年金を受けることができなくなることや、不慮の事故等により障がいが残ってしまった場合に、障害基礎年金を受けられることがなくなることを防止するため、ご本人の申請により保険料の納付が猶予される制度です。

★本人の所得のみで審査

学生納付特例はご本人の所得のみで判定することになりますが、所得のある人については、基準額以下の場合に特例を受けることができます。

※学生は、学生納付特例制度のみご利用いただけます。

★学生納付特例期間の年金はどのくらい？

「納付」と「学生納付特例」と「未納」はこのように違います。

年齢	基礎年金		納付	学生納付特例	未納
	受給資格期間	年金額に算入			
○	入ります	入ります	○	○	×
○	入ります	入ります	○	○	×
×	入ります	入ります	×	×	×
×	入ります	入ります	×	×	×

○障害基礎年金および遺族基礎年金を受給されるためには一定の受給要件があります

○学生納付特例を受けた期間は、将来受ける年金の受給資格期間に算入されますが、年金額には反映されません

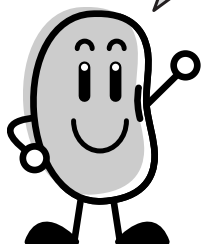
○学生納付特例が承認された期間の保険料は、10年以内であれば、古い期間から順に納付（追納）が可能です。（ただし、承認を受けた年度から起算して、3年度以降は、当時の保険料に一定の金額が加算されます）

★保険料の追納はJuntango

追納にあたっては、別途申請書の提出が必要になります。申し込みは本別町役場住民課戸籍年金担当または帯広年金事務所（☎0155-6515003）で行うことができます。

平成23年度の
国民年金保険料額は
1か月15,020円です。

お支払い方法によってお得な割引もありますので、お気軽にお問い合わせください。



詳しくは
住民課戸籍年金担当へ

☎22-81288

講演 新しい公共とまちづくり

坂東局長は、官だけでなく町民自体が、官が担ってきたことを主体となつて関わり、いろいろな分野で共助していくことが、新しい公共であることを提言しました。また、社会的課題を解決することにより、きずなや連携が学びから生まれ、地域コミュニティの再生につながるとし、社会教育の充実と公民館や図書館、学校などの施設を活用し、地域全体のネットワークを広げ



文部科学省生涯学習政策局長
坂東 久美子 氏

ていくことを提案しました。生涯学習は一人ひとりの生活の充実に結びつきがあることから、当事者同士が集まり、課題解決のための熟議を重ね、多くの人が「どういう課題に、どんなアクションを起こし、どう解決していくか」これが新しい公共のツールであり、実践につながるものになると話しました。

パネルディスカッション 生涯学習を通じた新しい公共へのアプローチ



パネリスト
コーディネーター
小山 忠 弘 ふるさと再生塾塾長
パネラー
坂東 久美子 文部科学省生涯学習政策局長
今野 公 司 町総合計画策定審議会会長
高橋 正 夫 町長



パネルディスカッションでは、これまで町民と協働で取り組んできたまちづくりを振り返りながら、第6次総合計画を進める方策を探りました。第5次総合計画から、町民と協働しボランティアなどを通じて、いくつもの困難を乗り越えてきた本別町。このことから一人ひとりの意識が大きくなってきたという現状が挙げられ、今後も生涯学習を基本として町民全体が成熟したまちづくりに向けて更なるステップアップをしなければいけないことが議論されました。また、豊かな大地を育み、次



世代へバトンタッチするために、情報の共有と新しい公共を進めることの大切さと、第6次総合計画の構想を「かしわ」に見立て、「根」「幹」「枝」それぞれの役割について再確認しました。最後に、町を大切に育むことや、町の宝を見出すことを意識しながら、官民がともに知恵を出し合うことがまちづくりのヒントとして提案され、今日が安心、安全のまちづくりに向けた次のステージへのスタートとなることを願い締めくくりました。



ほんべつ 喜び 実感 フォーラム
ほんべつ 喜び 実感 フォーラム（いきいきほんべつ ふれあい祭り実行委員会主催）が3月9日、中央公民館で開催されました。第6次本別町総合計画の説明スライドを上映したほか、文部科学省生涯学習政策局長坂東久美子さんの講演やパネルディスカッションが行われ、会場に集まった約200人はこれからの本別町の歩みについて確認しました。



受賞おめでとうございます

20個人、5団体

平成22年度 少年少女文化・スポーツ奨励賞

平成22年度の「少年少女文化・スポーツ奨励賞授賞式」が3月12日、中央公民館で執り行われました。受賞者は次の通りです。(敬称略)

少年少女文化奨励賞

【個人】

内田安咲 (中央小1年)
平成22年度十勝子ども大会
書写の部……………特選



戸叶次朗 (中央小4年)
第22回全国児童水辺の風景画コンテスト
……………入選



篠原梨世 (勇足小4年)
第33回全国民謡協会全国大会
年少の部……………準優勝

中村瑠亜 (勇足小4年)
第36回全国民謡協会北海道連合会全道大会 子供の部……………優勝

安部桃歌 (中央小6年)
第44回カワイ音楽コンクール帯広地区予選会 ピアノソロ部門Bコース……………入賞

府川璃虹 (中央小6年)
第44回カワイ音楽コンクール帯広地区予選会 ピアノソロ部門Bコース……………入賞

向井恵梨奈 (中央小6年)
第44回カワイ音楽コンクール帯広地区予選会 ピアノソロ部門Bコース……………入賞

少年少女スポーツ奨励賞

【個人】

府川慧哉 (中央小1年)
第22回全十勝スポーツ少年団水泳交流大会
小学1年男子25m自由形……………第1位
小学1年男子25m背泳ぎ……………第1位

前田萌衣 (中央小1年)
第7回北海道スポーツ少年団水泳交流大会
小学2年以下女子25m背泳ぎ……………第1位
……………第1位
第13回十勝新春水泳競技大会
8歳以下女子25m背泳ぎ……………第1位

廣田七菜 (中央小1年)
第22回全十勝スポーツ少年団水泳交流大会
小学1年女子25m背泳ぎ……………第1位

倉川菜英 (中央小1年)
第22回全十勝スポーツ少年団水泳交流大会
小学1年女子25m自由形……………第1位
小学1年女子50m背泳ぎ……………第1位



羽生乃彩 (中央小3年)
第7回北海道スポーツ少年団水泳交流大会
小学3年女子50mバタフライ……………第1位
第13回十勝新春水泳競技大会
9-10歳女子200m自由形……………第1位

西村明莉 (中央小5年)
第37回全十勝小学校陸上競技大会
女子5年80mH……………第1位

細岡笙太 (中央小6年)
第13回十勝新春水泳競技大会
11歳-12歳男子50m背泳ぎ……………第1位

野崎隼杜 (本別中2年)
第40回全十勝中学校夏季剣道大会
男子個人戦……………優勝

山下智大 (勇足中3年)
第41回北海道中学校スケート・アイスホッケー大会 男子1500m……………第4位

高橋美加 (仙美里中3年)
第12回北海道ジュニア陸上競技選手権大会
女子共通ジャベリックスロー……………第1位



【団体】

本別陸上少年団 (4人)
第37回全十勝小学校陸上競技大会
女子3年4×100mリレー……………第1位

本別水泳スポーツ少年団 (4人)
第7回北海道スポーツ少年団水泳交流大会
小学5・6年男子200mフリースタイル……………第1位
第33回全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会北海道予選会 11歳-12歳男子200mリレー……………第2位



本別剣道スポーツ少年団 (4人)
第44回全十勝少年剣道団体優勝大会
小学生高学年男子の部……………優勝

本別中学校剣道部 (7人)
第10回全十勝中学校春季剣道大会
男子団体……………優勝

本別剣道スポーツ少年団 (6人)
第15回十勝大平原全道少年剣道錬成大会
小学生の部……………準優勝



吉川智穂 (本別中2年)
平成22年度十勝子ども大会
絵画の部……………特選

高畑柚子 (本別中3年)
第25回全道中学生の税をテーマとしたポスター……………北海道知事賞 入選

梅津知代 (仙美里中3年)
平成22年度十勝子ども大会
英語暗唱の部……………最優秀賞

【団体】

本別中央小学校5年2組 (21人)
平成22年度全十勝小中学校学級学校学習新聞コンクール
学習新聞高学年の部……………最優秀賞

勇足へき地保育所

落成式

たくましく
のびのび
大きく羽ばたけ

外装、内装に十勝産のカラマツ材をふんだんに使い、町の公共施設として初めてとなる太陽光発電設備を導入した、勇足へき地保育所の落成式が2月28日、園児やその保護者など約50人が出席し同所で開催されました。

落成式では、高橋正夫町長が「子供たちが、この新しい保育所で、木のぬくもりを感じながら快適に過ごし、心身ともに健全でたくましく、のびのび、大きく羽ばたくことを願っています」とあいさつ。続いて、施設の概要報告の後、方川一郎議長が祝辞を述べました。最後に、落成式に出席した同保育所の園児15人から、「あかるく、ひろく、あたたかいところです。これから、おともだちとなかよくし、げんきにあそびたいとおもいます」と元気なお礼の言葉がありました。

3月1日から、23人の園児が新しい保育所生活をスタートさせています。



大きな声で、お礼の言葉を述べる園児たち



屋根に太陽光パネルを備えた、木のぬくもりを感じさせる勇足へき地保育所

本別町農商工連携

人材育成セミナー

目指せ地域ブランド

本別町の豊かな農畜産物を生かした加工品で、新たな産業作りを目指し、昨年9月にスタートし本別町農商工連携人材育成セミナーの最終回となる第7回公開講座が2月25日、道の駅「ステラ★ほんべつ」で開催され、武蔵野美術大学の井口博美教授と長澤忠徳教授が、地域ブランドとビジネスについて講演しました。

「これからの地域産業とデザイン&ブランド戦略」をテーマに講演した井口教授は、「十勝らしさ」「十勝ならではのこだわり」といった十勝独自のスタイルのデザインでブランド化を図り、それをどう経営に結びつけていくかが重要であると語り、「地域ブランドを活用したビジネスモデル」と題して講演した長澤教授は、世代が代わっても受け継がれるものがブランドで、ブランドを作るためには、「ちよつと変わった人を大切にしながら、一步を踏み出す勇気が必要」と強調。最後に、過剰な期待はせずに楽しみながらブランド作りに取り組んでくださいとアドバイスし、約30人の参加者は真剣な眼差しで講演に耳を傾けました。

計7回の講座には述べ2000人が参加し、今後地域資源を生かした起業に向けての取り組みが期待されます。



井口教授の講演に耳を傾ける参加者



講演前に実施された、本別産の農畜産物を使った「豚ピザ」と「ミソドレ焼きうどん」の試食会

HELLO 農業大学校

農大農業経営研究科です!

農業大学校の農業経営研究科には全国の農業大学校、短大、大学の卒業者が集まり、自ら計画したテーマで国内外を問わず総合実習を行い課題の解決に取り組んでいます。

つつじ祭り、校内イベント、道の駅で販売している、「仙美里ヶ丘」の製品は食品加工販売の実習で製造した、研究科学生の実践教育の結晶です。



2年間の実習の成果、卒業論文の発表を終えて



全国農業大学校等プロジェクト発表会にて特別賞を受賞！研究科での取り組みが全国で評価されました



海外青年協力隊（フィリピン）にて現地で精力的に活動しています



本別の黒豆を使いレシピが完成しました！「黒豆きなこアイス」をよろしくお願ひします



ニュージーランドで元気に実習しています！（地震のときは心配しましたが◎！）



農大「仙美里ヶ丘」ブランドは僕たちが丹精込めて作ります

ほんべつ学びの日 夢風事業 図書館講座

いのちのことは

胎教からの読みきかせ

♪ 聴こえんこころよ ♪

ほんべつ学びの日夢風事業図書館講座いのちのことは「胎教からの読みきかせ聴こえてくるよ」と題した講演が、帯広高等看護学院教務主幹の宮川豊恵さんを講師に3月5日、図書館で開催されました。講演では、胎児の脳の発達や記憶、胎児期からの読みきかせの役割について教えてくれました。



「読みきかせを、生まれてからではなく、胎児期から始めて見ませんか」と投げかけた宮川さん。その理由に、胎児がお母さんのおなかの中でたどる過程は人間の進化の過程と同じで、話しかけることで、お父さんやお母さんの声を認識し記憶しているということを挙げ、「おなかの赤ちゃんにやさしく話しかけると、赤ちゃんは安心して、一人の人間として尊重されていることを体感している」と話しました。このようなことから、お

なかにいるときからの読みきかせや語りかけが胎児の持つ力や育つ力を育むと提言しました。最後に宮川さんから、「赤ちゃんは、愛されることの体験を通して親への信頼や安心の心を育みます。胎児期は期間限定です。赤ちゃんとともに今を楽しみむころではじめの一步を踏み出しましょう」とメッセージが送られ、会場を訪れた約20人は、胎児への語りかけや読みきかせの必要性を学びました。



道内で3年連続 交通死亡事故ゼロ 3 | 9

本別町民が平成22年度1年間を通して、道内での交通死亡事故を起こさなかった功績が認められ3月9日、十勝総合振興局で北海道からの感謝状が手渡されました。同表彰は今年度で3年連続。町内での交通事故死ゼロは、1323日（3月25日現在）を達成し、現在も更新中です。



本別町教育功績者 表彰式 3 | 12

平成22年度本別町教育功績者表彰式が3月12日、中央公民館で開催され、仙美里小・中学校PTA活動で学校教育の振興に尽力された高橋好則さんと、図書館施設の整備を通じた生涯学習による協働のまちづくり推進に大きく寄与された岡崎勉さんが表彰されました。若木佳則教育委員長は「この受賞を契機に一段のご尽力をお願いします」とあいさつし、高橋さんは「今後とも微力ではあるが、日本の子供のために頑張りたい」、岡崎さんは「図書事業を通して、今後でもできる限り本別町の子供のために尽くしていきたい」とお礼の言葉を述べました。



家族みんなで遊ぼう!! 3 | 6

休日を家族で過ごしてもらおうと施設を開放する家庭教育支援事業「なかよし」の「ばまキッズファミリーデー家族みんなで遊ぼう」が3月6日、子育て支援センターで開催されました。参加した13組41人の親子は、おもちゃやジャングルジムなどで遊び楽しい時間を過ごしたほか、心理カウンセラー圓山嘉都美さんによる「お父さんのためのストレス解消法のお話」も行われ、参加した7人のお父さんは子育てへの思いを語り合い、交流を深めました。



全道中学生の税をテーマとしたポスター募集 本中生6人入賞 3 | 7

第25回全道中学生の税をテーマとしたポスター募集に入賞した本別中学校の生徒6人への賞状伝達式が3月7日、同中学校で実施され、由川孝典十勝総合振興局地域政策部長から、賞状と記念品が手渡されました。入賞を果たした生徒らは、「こんな賞をもらえると思っていなかったの、とてもうれしい」「一番良い賞をもらえてうれしい」など、喜びを語ってくれました。受賞者は次の通り。(敬称略)

北海道知事賞	入選	高畑 柚子 (3年)
北海道教育委員会教育長賞	優秀賞	石山 成美 (3年)
十勝総合振興局長賞	金賞	加納 眞 (3年)
	同上	銀賞 柘田 沙希 (2年)
	同上	銅賞 伊藤 千耶子 (1年)
	同上	銅賞 鈴木 愛絵 (1年)



東北部3町が スポーツで交流 3 | 6

十勝東北部冬季スポーツ交流会（十勝東北部体育振興会議主催）が3月6日、町体育館で開催されました。100個の玉をバスケットに入れるタイムを競うアジャタ（玉入れ）に、足寄、陸別、本別から11チーム74人が参加。苦戦しながらもさわやかな汗を流し交流を深めました。成績は次の通り。(敬称略)

優勝＝本別ミニバレー（本別町）
準優勝＝外田組（足寄町）
第3位＝芽登スポーツクラブ（足寄町）



高齢者文化祭 3 | 6

本別町老人クラブ連合会（鎌田一平会長）による第25回高齢者文化祭が3月6日、中央公民館で開催されました。会場では、手芸や陶芸などの作品展示のほか、40組約100人が出演した芸能発表では、カラオケや舞踊、ダンスなどの日ごろの練習の成果を披露し、会場を訪れた約350人の目を楽せました。



チエトイ会館の照明が LEDになりました 2 | 23

チエトイ会館の蛍光灯が2月23日、LED照明に取り替えられました。これは、地域貢献活動の一環として(株)新妻組（新妻嵩社長）の社員8人により実施されたもので、新しく取り付けられた照明は室内を明るく照らしていました。この照明は同社により提供されたものです。



棋力を競う 2 | 27



第31回町民囲碁大会（町文化協会、中央公民館主催）が2月27日、老人

福祉センターで開催されました。2つのクラスに分かれた23人の参加者は、囲碁の棋力を競い合い、会場には碁を打つ音が響き渡りました。本別町の上位者は次の通り。(敬称略)

Aクラス 優勝 田西 信雄
Bクラス 優勝 木村 恵
準優勝 吉田 武久

華麗な舞いを披露 2 | 27

第34回舞踊祭（町文化協会、中央公民館主催）が2月27日、中央公民館で開催されました。出演した民舞やフラダンス、バレエなどの7団体は、日ごろ練習したあでやかな演舞を繰り広げ、約220人の来場者から多くの拍手が送られました。

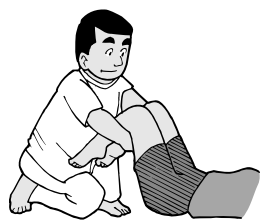


みんなの健康

320

今回は足の症状に関してです。次のような症状がある人はいませんか？

①冷感やしびれを感じる
②ある一定の歩行距離で痛みにより歩けなくなる、しばらく休むとまた歩ける、少し歩くと、ふくらはぎや太ももの裏などがしびれたようになる



こうした症状は、放っておくと、安静時でも痛みが現れる（特に夜間痛む）、皮膚にジクジクがきたり指先が変色する等の症状が現れるように、

足の症状にぜひ用心 閉塞性動脈硬化症

因（※）はいわゆる動脈硬化で、高血圧や高脂血症、高血糖、喫煙などにより血管の壁が傷害されることにより生じます。また、50歳以上の男性に多いこともわかっています（女性ホルモンに動脈硬化を予防する働きがあることにより）。

冒頭に提示した症状のレベルであれば薬やカテーテルによる血管治療（PTA）風船療法やステント治療

場合によっては指や足を切断しなければならなくなるほど重症化することがあります。

これは閉塞性動脈硬化症（ASOまたはPAD）と呼ばれる、主に下肢の血管が詰ったり、細くなったりする病気です。足の筋肉や指先に十分な血液（酸素）を送ることができず、様々な症状を引き起こすことになり、血管が細くなる主要な原因

が有効である場合があり、症状を改善する可能性があります。より軽いものは薬と運動で血行改善が図られる場合もあります。また温泉や足湯に効果ありという報告もあるようです。いずれにせよ症状の軽いうちに診察を受け、適切な治療を受けることが必要です。

閉塞性動脈硬化症は、単なる足の病気と思われがちですが、足の血管が傷んでいると同様に、全身の血管が傷んでいることが考えられ、とりわけ、心臓の血管、頭の血管、腎臓の血管などで、進行すればそれぞれ重大な病気を引き起こすことになり、こうした観点からも生活習慣病（メタボ）対策や禁煙の重要性を考えなければなりません。

※通常の動脈硬化とは別に原因不明で末梢血管の狭窄が生じるパージャヤー病という難病もあります

本別町国民健康保険病院
人工透析室
主査 白山英明

未来に輝く子どもたち



本別町の未来を担うかわい星たちです。
お父さん、お母さんのたくさんの愛に包まれてすくすく元気に育つてね！



北の目
道下 杏成 (絵美ママ)



活込
佐川 千祐 (千夏ママ)



追名牛
本寺 模斗 (瑞穂ママ)

※写真は本人に了解を得た上で掲載しています

私たちの想いを 南三陸町の仲間へ

3/22・24

26年間本町の中高生との相互交流を続けている宮城県南三陸町が東北地方太平洋沖地震により被災したことを受け、仙美里中学校生徒会（加藤雅大会長）、本別中学校生徒会（渡辺静会長）、本別高校生徒会（志戸田康代会長）が3月22日、勇足中学校生徒会（河野綜太会長）が3月24日、教育委員会を訪れ、生徒や教師、父兄から集めた義援金と生徒からの手紙を澤田満教育長に手渡しました。これは、長年交流を続けてきた仲間を想う気持ちから取り組まれたもので、澤田満教育長は「自主的に立ちあがってくれたことに感謝します。皆さんの善意の気持ちを南三陸町へ届けます」と感謝の気持ちを述べました。



第76回定期総会 宮城県・南三陸町への義援金も

第76回定期総会が3月20日、帯広市内のホテルで開催され約40人が出席しました。相澤会長は「80回目の総会に向け、わきあいあいとクラス会のように交流を深め力を合わせていこう」とあいさつ。高橋正夫町長らが本別町の近況を報告し、会員はふるさと本別町の話しで親睦を深め、ビンゴゲームなどで盛り上がっていました。東北地方太平洋沖地震で被災したふるさと本別町と交流が深い宮城県南三陸町への募金も取り組まれ、高橋町長に手渡されました。



ご寄付ありがとうございます 平成23年2月10日から3月5日

次の通りご寄付をいただきました。紙上をかりて厚くお礼申し上げます。（敬称略）

★本別町国民健康保険病院指定

タオル 40本	向陽町 匿名	名
タオル 30本	新町 匿名	名

★本別町老人ホーム指定

タオル 95本・ポケットティッシュ 100個	勇足カラオケ愛好同志会
タオル 490本・紙おむつ他数点	南1丁目 有限会社 河原商店

足寄町

道の駅あしよる
銀河ホール21
リニューアルオープン

昨年10月から改修工事を行っていた、道の駅あしよる銀河ホール21が4月18日にリニューアルオープンします。改修後は観光物産販売やベーカーリーコーナー、テイクアウトコーナー、レストランをオープンするほか、松山

陸別町

銀河の森天文台
からのお知らせ

□天文台開館時間変更のお知らせ
4月1日から9月30日までの期間は午後2時から午後10時30分までの開館となります。

□土星観望会
この時期きれいに見える金星と土星をぜひご覧ください。
4月27日から5月8日まで観望会を行います。説明会は、期

千春さんコーナーを2階から1階に移動し、展示内容を一新します。また、旧駅ホーム部分にはホールを設置し、ふるさと銀河線のレールを再現します。

オープン当日にはテープカットなどのセレモニーを予定しています。皆さんのご越しをお待ちしています。

□詳細 あしよる観光協会
☎2516131

間中の土日・祝日の午後7時からのみ行います。

□入館料

大人	300円
小人(小・中学生)	200円
《夜間》	
大人	500円
小人(小・中学生)	300円

※小学生未満 無料

□問い合わせ
銀河の森天文台
☎2718100



— 足寄町・陸別町から —

広報ほんべつ 第990号

平成23年4月1日発行
印刷／本別印刷株式会社

本のある暮らし

121

ファースト・ブック おすすめ貸出セット ができました

～心豊かな赤ちゃんの誕生を願って～

お誕生

2月後半から
3月前半の
届出分

笠原 悠豊はると 陽史 2/15 勇足元町
青木 星那せな 良太 2/17 栄 町
山田 朋和ともかず 裕啓 2/25 奥仙美里
石川 翔太しょうた 賢二 2/27 清流町
北野 更紗さらさ 和秀 3/3 清流町

ご結婚

(高橋 秀和ひろかず 清里
山口 康子やすこ 大阪府)

おくやみ

門脇利津子りづな 74歳 2/17 北1丁目
湯山ひろ子ひろこ 62歳 2/21 東仙美里
福地めぐみめぐみ 33歳 2/21 北5丁目
楠茂タツヨたつよ 94歳 2/28 山手町
横山 富子とみこ 61歳 3/4 向陽町
佐古田トシミとしみ 95歳 3/5 柏木町
戸田 秀男ひでお 88歳 3/6 勇足元町
佐々木とめとめ 93歳 3/6 南2丁目
橋本 春雄はるお 87歳 3/7 柏木町
竹ヶ原武志たけがはら ぶし 80歳 3/7 錦 町
太田 知幸ちゆき 72歳 3/8 北3丁目
富田ヒテひて 93歳 3/9 押 帯

胎教からの読みきかせの大切さを知ってもらうため、
図書館ファースト・ブック事業をスタートして2年。
今年度は新たに、家庭でおなかの赤ちゃんとの絵本を楽しむための
「おすすめ貸出セット」をつくりました。

妊婦さんにぜひ読んでもらいたい本20冊を選んでいきます。
ご家族で、おなかの赤ちゃんとのゆっくりコミュニケーション
してみませんか？

赤ちゃんは、おなかの中でみんなの声を聴いて、
それを記憶して生まれてくると言われています。
愛情いっぱいのことばをたくさん聴かせてあげてくださいね。
どうぞ、ご利用ください！



※貸出リスト、
胎教の音楽CD、
講演「胎児期からの読み聴かせ」DVD
も入っています

わたしたちのまち

前月比

人口 8,366人(-18)

男 4,115人(-12)

女 4,251人(-6)

世帯数 3,884戸(-13)

〔2月末日住民基本台帳〕

お問い合わせ先

本別町図書館

(愛称：ぶつくる一丸)

本別町北2丁目 ☎・FAX 22-5112

発行 本別町

編集 企画振興課
広報電算担当

住所 北海道中川郡本別町
北2丁目4番地1

電話 0156-22-8121
FAX (直通)
0156-22-3237

ホームページ
<http://www.town.honbetsu.hokkaido.jp/>



資源を大切に——
広報ほんべつは、道産間伐材を使用しています。